

わがまち紹介

河内町

夢のある町へ チャレンジ河内！

株式会社筑波銀行 龍ヶ崎支店長
菊池 聡



河内町長
野澤 良治 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県河内町です。筑波銀行龍ヶ崎支店長 菊池 聡が河内町長 野澤 良治氏にお話を伺いました。

2期目の町政運営スタート

今年(2025年)5月から2期目の町政運営がスタートしました。1期目には、農産物直売所を改修した河内町産業観光交流拠点施設「かわち夢楽」の整備や幼保連携型認定かわちこども園の開園、老朽化していた中央公民館の建て替えなど、町民の生活環境の向上に資する事業に重点的に取り組みました。

2期目には、新庁舎の建設推進をはじめ、子育て支援や移住・定住支援、本町の基幹産業である農業支援などの課題に向けて注力していきます。

新しい中央公民館で 子育て・教育支援を強化

現在の町役場庁舎は建設から約55年が経過し、茨城県内でも古い庁舎であり、建て替えを予定しています。2024年度に策定した新庁舎建設基本計画を踏まえ、今年度すでに測量調査を終えており、9

月以降に基本設計、実施設計、本体工事の着工と順次進め、5年後の完成を目指します。

現在、人口減少にどう歯止めをかけるかが、本町の最も重要な課題となっています。そこで本町では、子育て・教育支援の充実を図るべく、「次世代育成支援金制度」による支援金の支給や幼児教育・保育の無償化などに取り組んできました。

また、今年5月にオープンした河内町中央公民館は、生涯学習の場としての機能に加え、子育て・教育支援の機能も整えました。1階では子育て支援センター、2階では学童保育、3階では公営塾を行っています。学童保育は平日の放課後に加え土曜日も実施しています。公営塾は、中学生を対象に週2回、無料で開催しています。子どもたちの下校後の午後6時40分から8時30分までの2コマで、講師を配置し英語と数学の自主学習の場を提供しています。講師は町の大学生や教員OBなどで、実に中学生の6割が利用する貴重な学習の場となっています。

英語教育の向上にも取り組んでいます。幼少期か

ら外国人と接して、英語を自然に学べる環境を整えることを目的に、認定こども園と小中一貫校である河内町立かわち学園にALT（英語指導助手）を配置しています。2024年10月にフィリピン共和国コルドバ町と姉妹都市協定を締結したことを受け、来年度は、フィリピン人のALTを増員する予定です。

ALTの配置に加え、かわち学園とフィリピンの語学学校をオンラインで結び、経験豊かな講師と一对一の英会話をを行うカリキュラムも実施しています。

一方で、高校生に対する支援が少ないとの声も耳にします。高校への通学手段は進学先によって異なりますが、スクールバスを利用する生徒は月に約3万円の費用負担があるようです。この費用を町で負担できないかという要望もありますが、スクールバスを利用する生徒だけに支給してしまうと、自力で通学する生徒やコミュニティバスを利用する生徒との不公平感が出てしまいます。そこで小中一貫校を卒業する生徒全員に「卒業プレゼント」として平等に支援金を支給することを検討しています。



「公営塾」を開催している中央公民館外観

成田空港で働く人の住宅需要を取り込みたい

人口減少対策として移住・定住の促進にも取り組んでいます。その一つとして、本町に移住するための住まいの確保を目的に、2024年度に委嘱した地域おこし協力隊の「空き家コーディネーター」とともに、地域の空き家の掘り起こしや利活用推進に取り組んでいます。

ただ、本町は農家住宅が多いので、敷地が広く草刈りなどの管理が大変なのが実情です。そこで、まずは「お試し移住」として、地域おこし協力隊の協力も得ながら、今年12月から農家住宅を活用した「民泊」を始める予定です。まずは本町での暮らしを知ってもらうことで、将来的な移住につながることを期待しています。

また、本町は千葉県との県境に位置し、成田空港

へ約20キロという立地の良さも生かしていきたいと考えています。成田空港では、2028年度末の供用を目指して、滑走路の新設や延伸などの機能強化が進められています。

それに伴い、雇用が数万人規模で増えることが見込まれており、成田空港で働く人を本町に呼び込みたいと考えています。現在、将来の土地利用を設計する都市計画マスタープランを作成しており、町内で住宅地の整備ができないか検討しています。

本町では成田市と比較して安価で土地を購入できますので、戸建て住宅を持ちたい方にはアピールできると思います。

子育て世帯に来てもらえば、子どもの数が増え税収も上がります。子どもたちは豊かな自然のなかで過ごせるというメリットもあります。来年から本町の魅力のPRと住宅地の整備について、取り組みを始めたいと考えています。

農地の集積・集約化と営農型太陽光発電の導入

本町は県内有数の米どころであり、農業の振興は重要な政策課題の一つです。今年度は、担い手への支援対策として、農業用機械を購入するための補助金を従来の50万円から300万円に引き上げました。

本町の農業の担い手は少しずつ増えていますが、高齢化が進み平均年齢は70歳を超えており、急速な担い手の減少が見込まれます。

そこで、将来的な担い手不足への対策として、効率的な農業経営に向けた農地の集積・集約化を検討しています。本町には約2700ha（ヘクタール）の農地がありますから、たとえば100ha規模で農業を行う農業法人を各地区に2か所、50～70ha規模を全体で15か所、30ha規模を全体で20か所くらいに再編するイメージを描いています。

また、耕地整理を行っていない7.5haの水田を利用した「営農型太陽光発電」を来年からスタートする予定です。営農型太陽光発電は、農地に簡易な太陽光発電装置を設置し、下部で作物を育てながら発電を行う取り組みです。農家は作物の販売収入に加え、売電による収益が期待できます。この規模の営農型の水田は、おそらく関東では他にないと思います。

近年の異常な高温傾向のなか、太陽光パネルの下では気温が2℃下がるという実証もあり、作業条件を改善でき、収量も一般栽培に比べ1割減ほどで済みます。水田周辺の農地では同時期に、ブドウなどの果樹の栽培を営農型で行う予定です。

稲作に関しては、大量に出るもみ殻の問題を解決するため、もみ殻処分施設の建設を検討しています。

小規模農家では田んぼで野焼きしている様子も見受けられますが、火災などのリスクが伴います。また、温暖化にも逆行します。もみ殻処理をプラント化すれば、バイオ炭として再生でき、農地に埋めれば土壌の改良効果を期待できます。また、製造過程で炭素が固定化され、大気中に二酸化炭素として放出されるのを防ぐことで環境保全にも貢献できます。発生する熱源は施設園芸に利用することも考えられます。



河内町は茨城県内有数の米どころ

観光・交流の振興と ふるさと納税の強化

本町は観光交流拠点の整備や廃校の活用などにより、観光・交流の振興を図っています。観光交流拠点の一つ、「かわち夢楽」は、2022年4月にオープンしました。地元の新鮮な野菜やお米が並ぶ「農産物等直売所」やカフェ「S☆GARAGE COFFEE」、お肉の専門店など施設が充実しています。

また、町内サイクリングの拠点として「サイクルステーション」があり、地域おこし協力隊が企画して月1回子ども向けの自転車教室を開催し、好評を得ています。

今年4月にはオープン3周年を迎え、大感謝祭を開催しました。当日は大勢の方が訪れ、特売や抽選会、ご当地キャラクターの登場、タヒチアンダンスショーなどで盛り上がり、交流拠点としての定着を印象づけました。

廃校の活用にも力を入れています。廃校の一つ、旧生板小学校は、テレ東の「こんナンSDGsどうですか?」という番組のロケ先となっています。教室の一つを昔ながらの図書室にしてみたり、カフェスタイルの喫茶店にしてみたりと、廃校を使った町おこしのアイデアを検証するという内容で、放映されました。この番組を一つのヒントに、継続的に交流の場として活用できる方向性を打ち出していければと考えています。

加えて本町は来年、町制施行30周年を迎えます。それに合わせ、スポーツや災害協力などで相互の交流を深めている宮城県蔵王町に、子どもからシニア世代にわたり健康増進・生涯学習・余暇活動・交

流等を総合的に行える拠点を開設したいと考えています。現地の豊かな自然環境を活かし、次代を担う子どもたちの健やかな成長を育む体験活動や、世代を超えたふれあいを促進する場としての活用を図り、さらに、指定管理者制度を活用することで、空き状況に応じて一般開放も行うことができますので、広域的なPR面での波及効果も期待され、町の魅力も広く発信できるものと考えております。

また、町制30周年に関連して、水と緑のふれあい公園に噴水を設置します。この公園では毎年11月初旬から2月中旬にかけて、茨城県最大級のイルミネーションイベント「かわちイルミネーション」が行われます。この時期に合わせ、園内にある不動免沼に噴水を設置することで、交流人口の増加や本町のPRにつながってほしいと期待しています。晴れた日は噴水のつくる虹を見られるでしょう。イルミネーションの時期以外にも散歩や子どもたちの遊び場として訪れてほしいですね。

ふるさと納税の強化にも取り組んでいます。2025年3月からは専門事業者に運營業務を委託しました。米を中心に肉や野菜、果物などの返礼品を強化することで、現在6千万円の寄付額を将来的に15億円まで伸ばしていきたいと考えています。



「かわち夢楽」で月1回実施する「小さな子ども自転車教室」

筑波銀行に期待すること

本町では新庁舎建設に関連して起債が増加します。建設費などの費用負担も大きく、返済期間も長期にわたると思いますので、筑波銀行さんにも協力していただきたいと思っています。

本町においても施設管理などを民間委託することが増えています。本町の事業をスピーディに実施、推進していくためにも、各分野の専門知識や知見を持つ民間企業の協力や提案が欠かせません。筑波銀行さんには地元企業への投資などにより成長を促すことで、官民連携による事業推進にご協力いただければ幸いです。

(取材日:2025年8月29日)

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



レンコン

歯切れのよさとシャキシャキとした食感がやみつきになるレンコン。肌の白さが美しく贈答用としても人気があります。



お米

茨城県を代表する稲作地域、河内町。この肥沃な大地で育った風味豊かなおいしいお米をぜひご賞味ください。

わがまちの ふるさと納税

河内町

Kawachi-machi



ワイルドスワンス

河内町にアトリエを構える革製品ブランド、WILDSWANS。熟練の職人が一つひとつ丁寧に手作業で製作しています。職人のこだわりが詰まったその製品は、使うほどに風合いを増し長く愛用できる逸品です。

この地で育まれた、心温まる贈り物 感謝の気持ちを込めてお届けします



常陸牛

茨城県が誇る高級ブランド常陸牛。口の中であられるような柔らかさとあふれ出すジューシーな旨みをご堪能ください。



純国産 キャビア

岩塩のみで薄味に調理しており、キャビア本来の味をお楽しみいただけます。とろりと濃厚でクリーミーな味わいが特徴です。



生板納豆

長年培われた独自の製法と安心・安全素材にとことんこだわり丁寧に作り上げました。



干し芋

茨城県産自社栽培にこだわった「熟成紅はるか」を使用した干し芋。ねっとりとした食感と熟成された風味は、やみつきになること間違いなし。素材本来のおいしさを堪能してください。



かわち コシヒカリビール

河内町の米が織りなす味わい深い地ビール。黒ビールのようなコクとほどよい苦味、そして奥行きのあるまろやかな口当たりが特徴です。



ドローン受講券

「JUIDA 認定」ドローン機操縦士、ドローン安全運航管理者養成講習を3日間でまとめて受講できるセットプランです。



楽天



ふるさとチョイス



ふるなび



ふるさとズ
(店舗型ふるさと納税)

Kawachi-machi